



Q 花粉症の処方薬の種類は？

A ステロイドの点鼻薬と抗ヒスタミン薬の内服など。症状によって効く薬も異なるので、医師に相談を

61歳、男性。3年前から花粉症にかかったようで、春先に鼻水・くしゃみが出ます。去年・一昨年と市販薬をのんでいましたが、去年はあまり薬が効いている感じがしなかったため、今シーズンは受診しようと思います。受診のタイミングや処方される薬の説明をお願いします。

(香川県 W)

● 回答者 ●
笠井耳鼻咽喉科クリニック
自由が丘診療室(東京都)
笠井 創



スギ花粉症は個々の人の症状と重症度を判断し、花粉の飛散状況を考慮して治療を行います。重症の花粉症の方では、軽症の人よりも症状が出る時期も早く、強い症状がおこります。そこで、毎年重い症状で苦しんでいる人に対しては、症状が出る前から抗アレルギー薬の内服治療を始めるという初期療法が行われます。これによって花粉が飛散しても症状が出る時期を遅らせ、その症状の程度も軽くすませることが出来ます。

シーズン中の花粉飛散量は日々変化しますから、薬の使い方にも工夫が必要です。花粉の飛散がピークに達する時期には、例年のもっとも重い症状を想定して効果の強い薬に変更します。スギ花粉につづいてヒノキ花粉が5月末ごろまで飛散しますから、よくなった症状を維持するために薬は最後まで継続します。一方、軽症の方では症状が出始めた時点で、すぐに治療を開始するという応急的な対処法でも十分コントロールができます。

花粉症の治療には、ステロイドの点鼻薬と抗ヒスタミン薬の内服、目の症状に点眼薬を主に使います。鼻に噴霧するステロイド点鼻薬は炎症を抑える効果が強く、副作用も少ないことから、治療に多く用いられます。鼻閉の強い場合には、鼻の粘膜を収縮させるために、血管収縮性の点鼻薬を一時的に使用します。内服の抗ヒスタミン薬は即効性があり、花粉症の治療にもっとも多く使われています。

眠気が少ないもの、鼻閉に効果のあるもの、効果の持続時間が長いものなど、特徴のある薬が数多く開発されています。鼻閉の強い重症タイプでは、鼻噴霧ステロイド薬と併用します。症状によって効く薬は異なるので、医師に相談してください。

